

埼玉親善大使・フィンドレー大学奨学生レポート②（9月） 「生活の安定化」

フィンドレーでの生活が始まってから2ヶ月が過ぎようとしています。最初の1ヶ月は学校や住環境などの様々な手続きに追われ、英語でのやりとりもつまづいてばかりだったため何をするにも時間がかかりました。しかし1ヶ月を過ぎた頃から現地の方と会話することにも徐々に慣れ始め、右も左も分からなかった渡米当初と比較すると地に足が着いてきたように思います。

第2回目となる今回のレポートでは私が受けている講義と、フィンドレーの企業で働いている日本人によるイベント Friends of Findlay について紹介したいと思います。

■ 1週間のスケジュール

前回のレポートでも少し触れましたが、今学期の私の平日のスケジュールは以下の表のようになっています。

	月	火	水	木	金
7:30-10:00-		Internship		Internship	
10:00-10:50-	Composition		Composition		Reading
11:00-11:50-					
12:00-12:50-					
1:00-1:50-	Reading		Reading		Reading
2:00-2:50-	Listening		Listening		Listening
3:00-4:00-					

平日は週3日英語のクラスを3クラス受講し、週2日インターンシップ生として働いています。英語のクラスは基本的に課題を基にしたディスカッションや添削が中心になっています。そのためクラスに出席している時間自体は長くありませんが、講義終了後から次の講義までの間にしなければならない準備が多く、そのため長い時間を割く必要があります。

この他に毎週火曜日は日本語クラスの友人に協力してもらい、同じ機械工学系奨学生の奥村君や総合系の曾根君と一緒に2時間程英会話の練習をしています。この週に一度の英会話の時間はただ英語の練習になるだけでなく、アメリカの文化や考え方などを知る数少ない機会になっています。普段アメリカ人の方と会話することがあっても、そういった内容について掘り下げて聞く場面はそう多くないため定期的にそのようなことを知る機会があることはとても助けになっています。

■ Friends of Findlay

フィンドレー市内及び周辺に工場を持つ会社で働く日本人によって毎年開催されるイベントで、日本人同士が集まり交流を深めています。ほとんどの駐在員の方々は家族と一緒に渡米しているため、その家族も集まり参加者は 200 名を超えました。今年は私と奥村君が働いているニッシンブレーキオハイオが主催だったため、当日は朝から会場の設営などを行いました。

早朝は曇りでしたが徐々に雲も無くなり、子供たちも交えドッジボール大会やビンゴで盛り上がりました。大学内にも日本人はいるものの、周囲にいる人間ほぼ全員が日本人という状況がとても久しぶりだったためにどこか懐かしく感じました。恐らくそれは駐在員の方やその家族の方も同様だったのではないかと思います。

異国の地で言語の壁も感じながら生活している駐在員の方とその家族の方にとって、こういった日本人同士で集まることができる機会は交流を深める以上の意味合いを持っていると感じました。



Friends of Findlay でのドッジボール



作業風景